

米国 耐久財受注の鈍化傾向持続 (07年 1月耐久財受注)

発表日：2007年2月27日 (火)

～設備投資も先送りの動き継続～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : sei_ji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

耐久財受注 (Advance Report on Durable Goods Manufacturers' Shipments and Orders)

	出荷				受注				在庫			
	耐久財	除く輸送機器		非国防資本財 除く輸送機器	耐久財	除く輸送機器		非国防資本財 除く輸送機器	耐久財	除く輸送機器		非国防資本財 除く輸送機器
05/2Q	+0.9	+0.7	(+7.9)	+1.2	+5.4	+1.2	(+8.7)	+1.6	▲0.3	▲0.1	+0.0	
05/3Q	+1.2	+1.4	(+6.3)	+1.5	▲0.2	+2.3	(+8.8)	+1.5	+0.4	+0.5	+1.9	
05/4Q	+3.7	+3.4	(+7.9)	+3.1	+7.0	+2.4	(+9.3)	+2.4	+1.1	+0.9	+0.3	
06/1Q	+1.2	+2.8	(+8.5)	+2.5	▲1.5	+2.8	(+9.0)	+3.9	+0.9	+1.5	+1.5	
06/2Q	+1.1	+1.3	(+9.1)	+1.4	+1.5	+2.5	(+10.3)	+0.9	+2.8	+2.6	+1.4	
06/3Q	+0.2	+1.3	(+9.0)	+1.7	+2.3	+0.9	(+8.8)	+3.5	+2.9	+3.4	+3.1	
06/4Q	▲0.6	▲1.6	(+3.7)	▲1.1	▲0.6	▲1.7	(+4.5)	▲1.2	+1.8	+1.8	+2.4	
06/06	+0.2	+0.6	(+10.2)	▲0.2	+3.3	+1.8	(+10.0)	+0.9	+0.9	+0.7	+0.6	
06/07	▲1.3	+0.3	(+10.8)	+1.5	▲2.8	▲0.1	(+13.4)	+0.6	+1.1	+1.1	+0.9	
06/08	+2.1	+0.8	(+9.4)	+1.3	+0.0	▲1.3	(+6.4)	+1.1	+0.7	+1.2	+1.0	
06/09	▲2.7	▲2.1	(+6.7)	▲1.6	+8.7	+0.5	(+6.8)	+3.1	+1.2	+1.1	+1.1	
06/10	+0.2	▲0.1	(+5.2)	▲1.5	▲8.1	▲1.8	(+4.7)	▲4.0	+0.8	+0.6	+0.5	
06/11	+0.3	▲0.3	(+4.2)	+2.1	+2.2	▲0.9	(+3.4)	▲1.0	+0.3	+0.2	+0.3	
06/12	+0.5	▲0.4	(+1.8)	▲0.8	+2.8	+2.6	(+5.4)	+3.6	+0.7	+0.9	+1.6	
07/01	+0.2	+0.9	(+1.6)	▲2.7	▲7.8	▲3.1	(+0.2)	▲6.0	+0.3	+0.0	▲0.1	

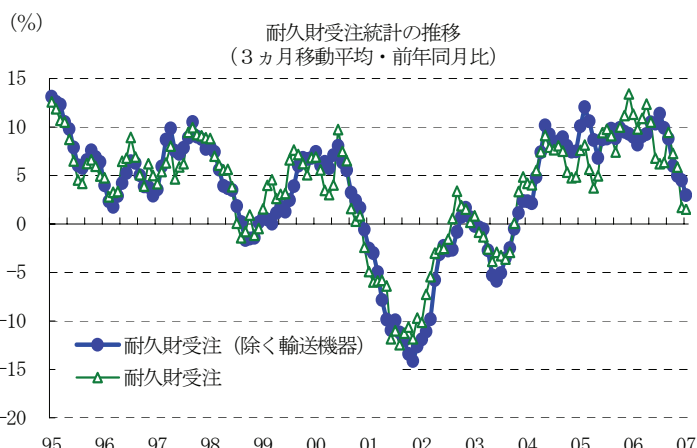
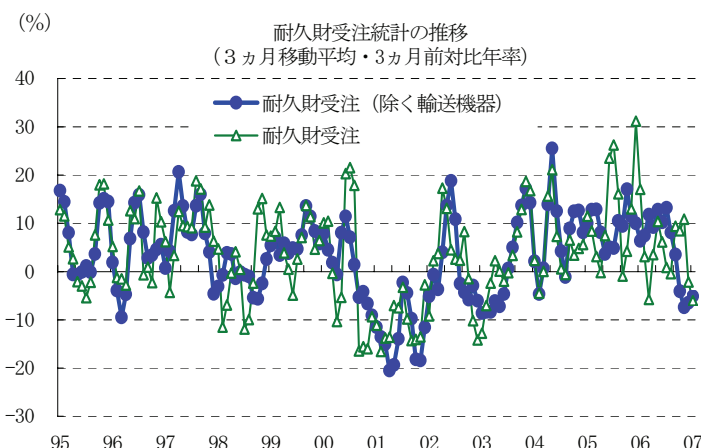
(出所) 商務省

(注) 四半期は前期比、月次は前月比伸び率。()内は季節調整値の前年比。

耐久財受注が前月比▲7.8%に失速、輸送機械を除く耐久財受注は同▲3.1%と減少した

07年1月の耐久財受注は前月比▲7.8%と前月の同+2.8%から失速、下落幅は市場予想の同▲3.0%を上回った。航空機、自動車、一般機械等が減少した。3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率でも▲6.1% (前月▲2.2%) とマイナス幅が拡大しており耐久財受注のモメンタム低下が続いている。

1月の輸送機器を除いた耐久財受注は前月比▲3.1%と減少に転じた。減少幅は市場予想の同▲0.2%を大幅に上回った。電気機器・同部品が増加したものの、価格の下落、自動車、建設機器の在庫調整等を背景に一次金属、一般機械、コンピューター・同電子部品が減少した。3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率でも▲5.1% (前月▲6.5%) とマイナスで推移しており、耐久財受注 (除く輸送機器) のモメンタムは弱いままである。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

高水準の受注残を背景に耐久財生産の急激な鈍化は回避されよう

耐久財在庫が前月比+0.3%と減速したものの、耐久財出荷も同+0.2%と鈍化したため、耐久財在庫率は1.408ヵ月（前月1.407ヵ月）と小幅上昇した。ただし、耐久財受注残が同+0.1%（前月同+2.2%）と増加基調を維持していることから、耐久財生産の急激な鈍化は回避されると予想される。

一次金属、一般機械、コンピューター・電子製品、輸送機械が減少

業種別の受注動向をみると、電気機器・同部品が増加した一方、一次金属、一般機械、コンピューター・電子製品、輸送機械が減少した。コンピューター・電子製品では、通信設備が前月比▲19.1%（前月同+15.1%）とマイナスに転じ、コンピューター・同関連製品が同▲5.0%（同▲3.4%）とマイナス幅拡大したため、全体でも同▲7.8%（同+1.6%）とマイナスとなった。輸送機器は同▲18.0%（同+3.1%）とマイナスに転じた。自動車・同部品が同▲5.1%（同+5.3%）とマイナスに転じた。加えて、ボーイングの受注が鈍化したことで非国防航空機・同部品が同▲60.3%（同+31.1%）、国防が同▲54.6%（同+16.5%）と大幅なマイナスとなった。

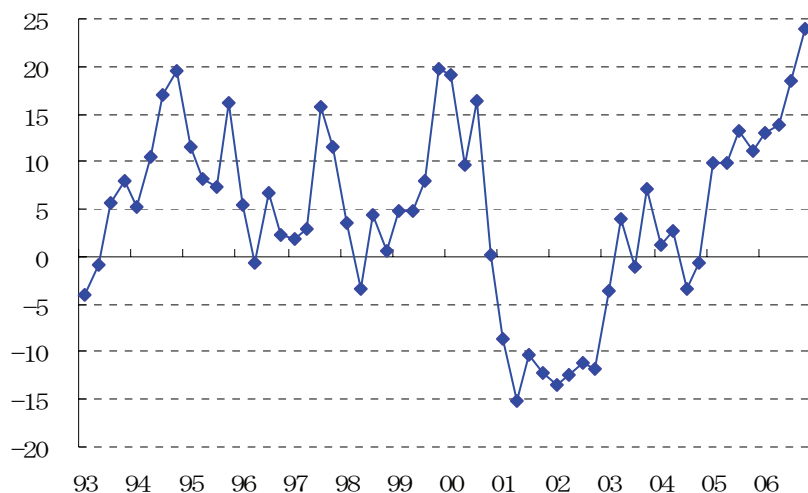
2007年1～3月期の機械・ソフトウェア投資は加速する見込み

設備投資関連の指標をみると、機械・ソフトウェア投資の一致指標である非国防資本財出荷（除く航空機）は1月に前月比▲2.7%（前月同▲0.8%）とマイナス幅が拡大した。受注は同▲6.0%（同+3.6%）とマイナスに転じた。一方、受注残は同+0.1%（同+2.2%）とプラスを維持しており、出荷が先送りされている可能性が高い。

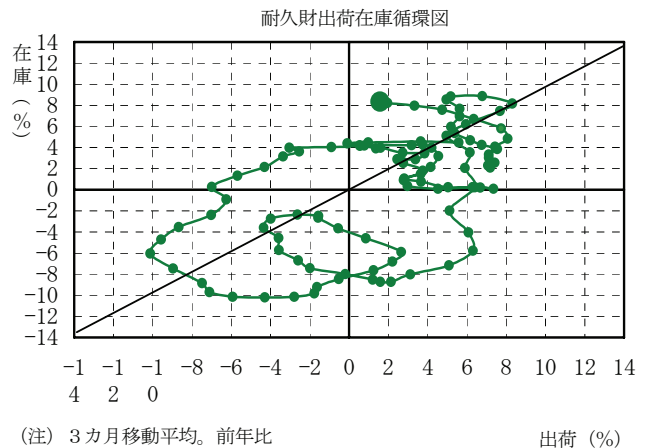
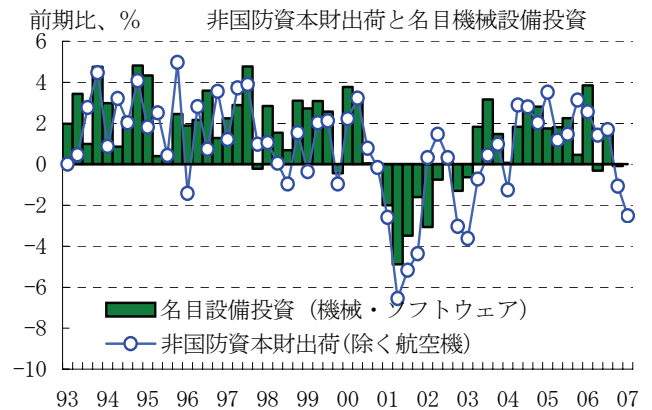
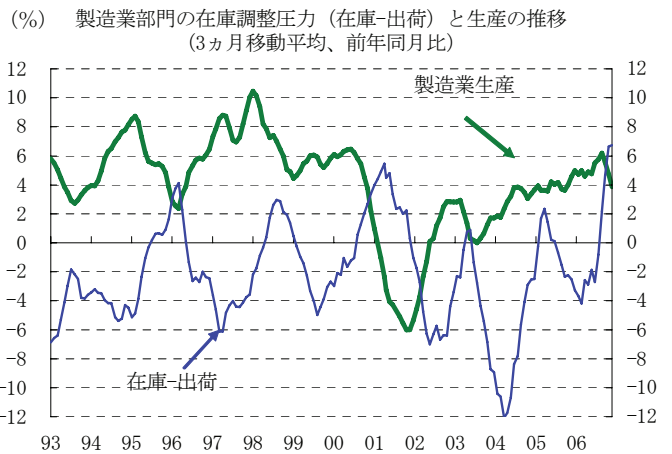
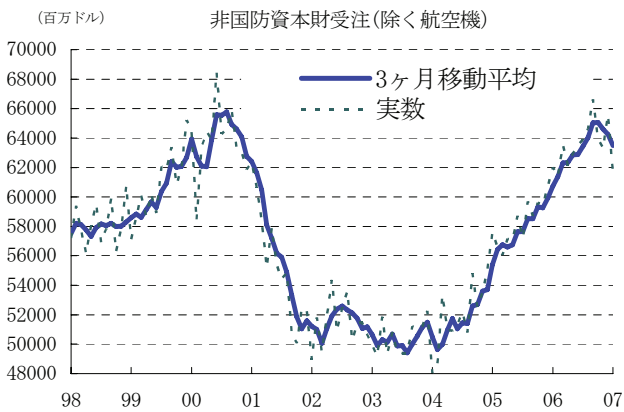
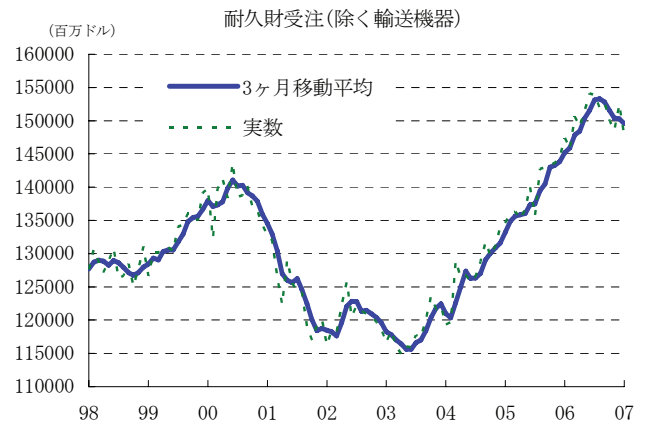
10～12月期の非国防資本財受注（除く航空機）は前期比年率▲4.7%（+14.6%）と高い伸びの後マイナスに転じた。一方で、10～12月期の非国防資本財受注残（除く航空機）が同+23.9%と加速したこと、新サーバー、新OSが発売されたこと、企業のキャッシュフローが潤沢なことから、2007年1～3月期の出荷は増加に転じると見込まれ、同期の機械・ソフトウェア投資は加速する公算が大きい。

なお、2006年10～12月期の非国防資本財出荷（除く航空機）が前期比年率▲4.2%と速報の同▲3.5%から下方改定されており、10～12月期の機械・ソフトウェア投資は小幅下方改定されよう。

(%) 非国防資本財受注残（除く航空機）の推移（前期比年率）



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。